

戦後復興と水戸の 農業のうつり変わり



堀原小学校 5年2組

大西 裕喜

目 次

1. 研究のきっかけ	・・・	p.2
2. 研究の方法	・・・	p.2
3. 研究の結果	・・・	p.2
(1) 戦後の水戸の復興と農業	・・・	p.2
(2) 現在の水戸市の米作り	・・・	p.3
(3) 米の食べくらべ	・・・	p.7
4. まとめ	・・・	p.7
参考にした本	・・・	p.8
図 1 水戸の町村がっぺい	・・・	p.8
図 2・表 1 水戸の農家数の変化	・・・	p.9
図 3・表 2 水戸市の耕地面積の変化	・・・	p.9

1. 研究のきっかけ

去年の夏休み、水戸空襲について研究をしました。水戸市は空襲で8割が焼けてしまったことが分かりました。ぼくは、戦後、水戸がどのように復興していったのか、調べてみたいと思いました。社会の時間に茨城県は米の生産が多いことを勉強したので、農業のうつり変わりから水戸市の戦後復興について調べてみることにしました。

2. 研究の方法

(1) 資料を調べる

茨城県立図書館の資料で、戦後の水戸の復興と農業について調べました。

(2) 話を聞く

JA水戸の方や茨城県立農業大学校の先生に、水戸で米作りをしている農家の方を紹介して頂き、現在の米作りについて話を聞きました。

(3) 体験する

水戸で作られた米を炊いておにぎりにして食べてみました。

(4) まとめ

研究から分かったこと、研究をとおして考えたことをまとめました。

3. 研究の結果

(1) 戦後の水戸の復興と農業

①戦後の農地いかくとしりょうとうせい

戦後、日本では農地いかくしが行われ、それまで自分の土地を持っていなかった多くの農民が自分で土地を持つことができるようになりました。

敗戦直後は深く不足で、水戸でも食生活は悪化しました。食りょうとうせいによって、食べ物は家庭に配布されたきっぷで配給されていましたが、配給の量は少なく、配給だけでは生きるために必要なカロリーさえとることができませんでした。配給の他に食べ物を手に入れるためには、ヤミで売られている食べ物を買うしかありませんでした。市街地に住む人たちは、生きるために、農家にたのんで、ヤミで自分たちの衣類と食べ物を交かんしていました。これによってもうける農家もありました。

②町村がっぺいによる農村ちいきのひろがりとう農業の発展

1949年から、水戸市ととなり合った町や村のがっぺいが進みました(図1)。がっぺいによって水戸市は農村ちいきがひろがりました。

食りょうとうせいはいしされると、農家はヤミによってもうけることができなくなりました。そこで、米や麦の他に、もうけの出る野菜や果実の生産をふやすように

なっていました。

1955年ころから、田畑をたがやすための機械化が進みました。ちょうどそのころ、日本の経済は急速に成長しはじめ、水戸市でもつとめに出て働く人の割合が増え、反対に農家の人の割合は減っていきました。また、農家の中でも、農業だけを行う専業農家の割合は減り、農業のほかに仕事をもって働くけん業農家の割合がふえていきました（図2、表1）。

③高度経済成長期の水戸の農業

生活の洋風化にたいおうして、野菜、果実、ちく産など、さまざまな農作物の生産がふえていきました。水戸市の農業生産では、ごぼう、白菜などのそれまでの野菜のほかに、にんじん、ねぎ、キャベツ、きゅうりなどの生産がふえました。しかし、水田の改良が進み、米の生産も減りませんでした。1970年には、米、野菜が同じくらい生産されるバランスのとれた農業が実現しました（図3、表2）。しかし、農業を行う人はますます減り、農家の中ではけん業農家の割合がふえました。

④安定成長期の水戸の農業

このころ、水戸では、ちく産や果実の売り上げがのびなくなったため、米の生産をふやしていきました。しかし、日本では、消費者の米ばなれによって米が生産かじょうになったため、減反せいさくがはじまりました。これによって、農業の経営はとてもしびしいものとなりました。

1972年には、13の農協ががっぺいして水戸市農業協同組合がたんじょうしました。減反せいさくに対して、水戸市と農協とが協力して転作を進めたほか、うまい米作りや施設園芸、新たな特産物を生み出すことなどがしょうれいされました。

今では農家はけん業農家の割合がさらにふえて、農業のこうけい者の不足も深くになっています。

（2）現在の水戸市の米作り

資料から、水戸は内原町や常澄村ががっぺいして田の耕地面積がふえていることがわかりました。そこで、内原と常澄でお米をつくっている農家の方に、今の米作りについて話を聞いてみることにしました。

①内原地区 青木良彰さん（30歳）

妻、子どもの3人家族。内原地区でAOKI FARMを経営。

○ひろき いつから農業を始めたのですか。

○青木さん 農業をしていた祖父がなくなったことをきっかけに農業を始めました。もともと工業高校出身で機械などを修理することができたので、古くなった農機具を安く買って修理して使いながら、少しずつ農機具を増やしてい

くことができました。

○ひろき 今、何を作っていますか。

○青木さん 米、小麦、大豆、はと麦などです。今年からネギ、あずきも作っています。大豆は納豆工場とけいやくしています。米は、こしひかり、あさひの夢、ほしじるし、という品種を作っています。あさひの夢はお店で売られている弁当用、ほしじるしは牛井用に使われます。

○ひろき 水はどこから、どのようにひいていますか。

○青木さん 潤沼前川という川からひいています。潤沼前川は細い川なので、水温が高くて、米作りには、あまり向いていません。

○ひろき 農業をやっている苦労することはどんなことですか。

○青木さん 天候にえいきょうを受けてしまうことです。台風でくきが折れてしまうと、実がふくらまなくなってしまう。カメムシなどの害虫が大量発生することもあります。

○ひろき 休みはどのくらいありますか。

○青木さん 今の私の休日は3か月に1日くらい、じゅうぎょう員は日曜が休みです。

○ひろき 今、大変なことはどのようなことですか。

○青木さん こうれい化が進んで、農業をやめる人がふえてしまっているのに、耕作されずにあれ地になっている農地があります。そういう農地を借りて面積をふやしてきました。だから田が飛び地になっていることです。飛び地になっていると作物の管理が大変です。今、22haの土地がありますが、田は全部で125枚あります。移動に時間がかかるし、1枚ごとの田の周囲の雑草をかる手間もかかります。でも、害虫にやられた田があっても、すべてをやられるわけではないというメリットもあります。



【たくさんの農業機械】

青木さんの田んぼのそばには、たくさんの農業機械がありました。古いものを修理して、買いかえながらふやしているそうです。直まきという新しい米作りの方法をためす農機具も改良したそうです。



【青木さんに話を聞く】

青木さんは、耕作されなくなった田があれ地になるのをふせぐために、借りて耕作しています。そのため、青木さんは飛び地になった125枚ものたくさんの田んぼをたがやしています。

- ひろき これからやってみたいことはどんなことですか。
- 青木さん 使われていない地域の土地をたがやして、あれ地を減らして地域の人の役にたちたいです。
- ひろき ぼくたちに伝えたいことはどんなことですか。
- 青木さん お米をいっぱい食べてもらいたいです。今、日本では、お米の消費量より生産量のほうが多く、たくさんのおよじょう米がでています。だから、みんなにたくさんお米を食べてもらいたいです。

②常澄地区 大谷広城さん（50歳）

母親、妻と3人で常澄の川又地区で農家を営む。現在、JA水戸の理事。

- ひろき いつから農業をはじめたのですか。
- 大谷さん 農業をしていた父親がとつぜんなくなったことをきっかけに農業を始めました。小さいころから父親を手伝っていましたが、父親がなくなった後は、地いきの人たちにいろいろと教えてもらいました。
- ひろき 今、何を作っていますか。
- 大谷さん お米と花です。米は常澄のブランド米の水戸っ穂風彩常澄を作っています。花はトルコキキョウをハウスでつくっています。
- ひろき 水はどこからどのようにひいていますか。
- 大谷さん 那珂川からひいています。この辺の土地は、那珂川と涸沼川にはさまれていて、夏の暑さと冬の寒さの寒暖差が大きいので、米作りにむいています。太平洋側からミネラルを多くふくんだすずしい潮霧という海風が吹いてくるので、土に塩分が多く含まれて、あま味のある米ができます。
- ひろき 苦労していることはどんなことですか。
- 大谷さん 苦労という苦労は思いあたりません。
- ひろき 休みはどのくらいありますか。
- 青木さん 休みは一年のうち十日ぐらいです。でも、それがあたり前なので、苦労とは思っていません
- ひろき これからやってみたいことはどんなことですか。
- 大谷さん 米作りで田を守っていくことです。このあたりの農家もこうれい化が進んでいて、毎年、1人くらいずつ農業をやめる人がいます。田はとても栄養がよいので、たがやされなくなると、とたんにごっ草がたくさんはえて、すぐにあれ地になってしまいます。自分たちで守っていかなければと思います。
- ひろき ぼくたちに伝えたいことはどのようなことですか。
- 大谷さん たくさんお米を食べてください。今年から国は米の生産調整をやめたので、これから農家は自由に米が作れるようになります。でも、米の消費量は減り続けているから、米はどんどんあまってしまいます。地元でとれるお米をぜひ、たくさん食べてもらいたい。水戸市の学校給食には、県内で作られたお米を使ってもらっています。生産者から直接、買う地元の米は、

新米と書かれてあれば 100%新米が使用されているけど、他の米は必ずしもそうではありません。安全でおいしいお米をたくさん食べてもらいたいです。



【大谷さんに話を聞く】

大谷さんの田のある常澄は、太平洋からたくさんの風がふき、たくさんの冷たい水も田にひくことができるなど、おいしいお米ができるための条件がそろっています。山形県の庄内平野に似ているそうです。



【潮霧のふく広い田んぼ】

大谷さんの田んぼを見せてもらいました。ものすごくひろい田んぼでした。太平洋からの海風である潮霧も強くふいていました。風は稲をかわかしたり、稲をゆらして全部の稲が太陽にあたるようにするなど、大切な役目をしているそうです。でも戦時中は、太平洋からはこの辺りでも艦砲射撃があったそうです。



【大谷さんといっしょに】

大谷さんは、「ごはんをたくさん食べてほしい」と話してくれました。

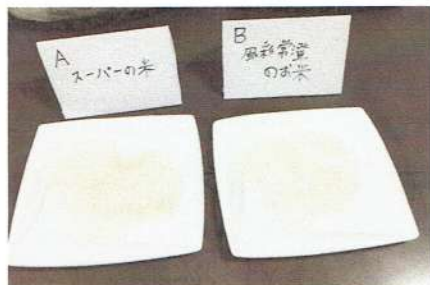


【トラクターに乗せてもらう】

稲かりをした稲が運ばれるライスセンターというところを見せてもらいました。そこには大きなトラクターがあり、ぼくも乗せてもらいました。乗るととても高くてびっくりしました。

(3) 米の食べくらべ

水戸の常澄地区で作られている水戸っ穂風彩常澄は、甘みがあって、冷めてもおいしく、おにぎりに向いているそうです。そこで、風彩常澄とスーパーで売られているコシヒカリをおにぎりにして食べくらべてみました。



【お米をくらべてみる】

スーパーで買ったコシヒカリと水戸っ穂風彩常澄をならべてみました。見た目ではちがいはわかりませんでした。



【おにぎり作り】

二種類の米をたいて、おにぎりを作りました。



【食べくらべ】

二種類の米で作ったおにぎりを食べくらべてみました。正直にいうと、ちがいはほとんどわかりませんでした。どちらもおいしかったです。

4. まとめ

①研究からわかったこと

戦時中、水戸は空襲でたくさん焼かれてしまったけれど、戦後はとなり合った町や村とがっぺいして農村ちいきを広げながら大きくなっていきました。しかし、1955年ころから経済が発展してくると、農家の数はだんだんへっていき、とくに専業農家がへっていったことがわかりました。耕地では、畑はへっていきましたが、田はへっていないこともわかりました。でも、農家の人の話を聞いて、農業をやめていく人がふえたので、田はたくさんあっても、耕作されなくなっている田がふえていること、耕作されなくなった田を借りてたがやし、あれ地にしないための努力をしている人たちがいることもわかりました。

②研究をとおして考えたこと

内原の青木さんと常澄の大谷さんでは、同じ水戸でも米作りのためのじょうけんはまったくちがっていたけれど、どちらもその土地で育てられる米をいっしょうけんめい作っていました。また、ちいきの耕作されなくなった田を借りて作物を作っているところも同じでした。農業をする人がへってしまうと田があれ地になってしまうので、だれかがたがやさなければなりません。そうすると、ひとりの人にかかるふたんがふえるので、農業はこれからますます機械化していく必要があると思いました。

ぼくはふだん、農業をしている人と話をすることはありません。今回、水戸の農業について調べてみて、戦後の水戸のはってんを農業の面から支えてきた人たちがいることを知りました。青木さんも大谷さんも、ぼくたちに伝えたいこととして、「ごはんをたくさん食べてもらいたい」と言っていました。ぼくたちがお米をたくさん食べることが、農家の人たちの仕事を支えることになります。ぼくは、これからもごはんを残さずにしっかり食べようと思います。

今回は戦後の水戸の農業について調べました。これからもっと他のことも調べてみたいです。

【参考にした本】

- 茨城県企画部統計課『茨城県統計年鑑』各年
- 水戸市市長室情報政策課統計調査係『統計年報』各年
- 水戸市史編さん委員会概説水戸市史編さん部会『概説 水戸市史』1999年

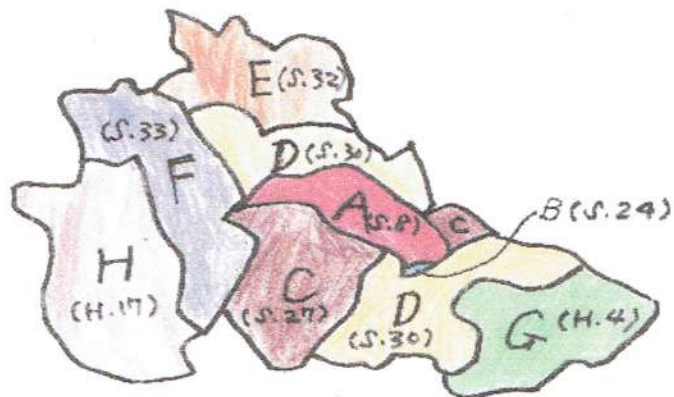


図1 水戸市史編さん部会

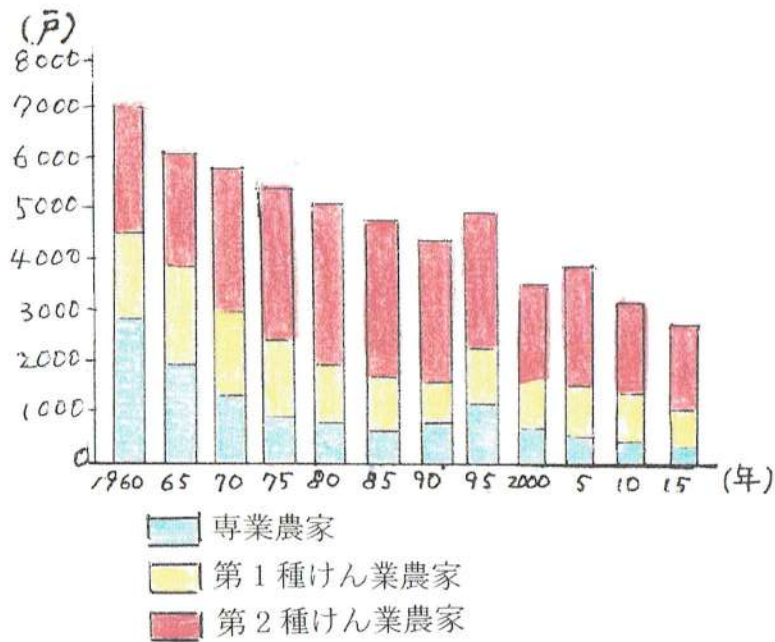


図2 水戸の農業数の変化

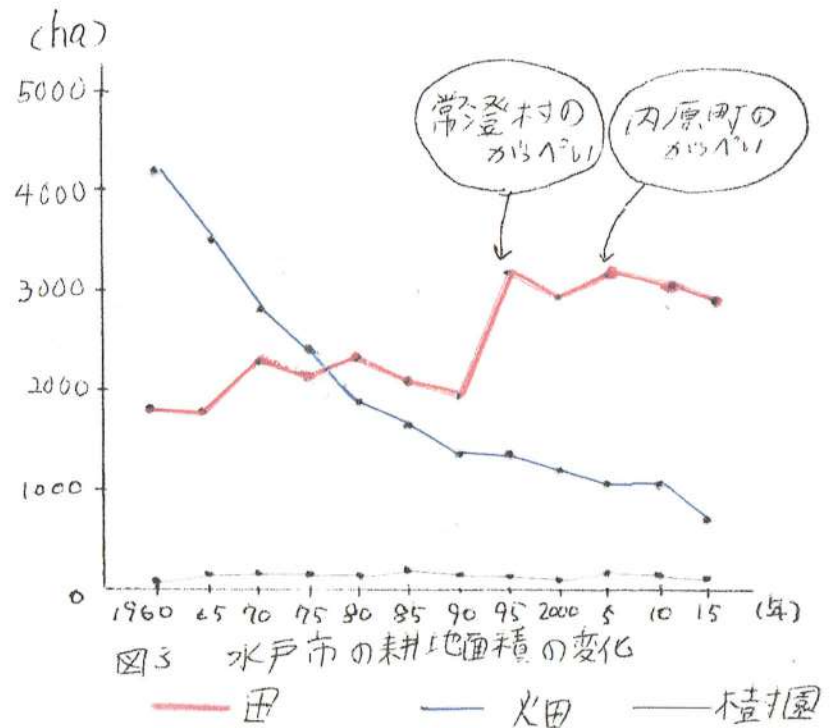


図3 水戸市の耕地面積の変化

表1 水戸の農家数の変化 (戸)

年	専業	第1種けん業	第2種けん業
1960	2854	1867	2359
1965	1955	1925	2281
1970	1299	1774	2715
1975	950	1482	3071
1980	592	1193	3145
1985	663	1071	3068
1990	700	865	2848
1995	1040	1113	2946
2000	572	1069	1811
2005	556	1015	2205
2010	466	866	1913
2015	337	656	1644

表2 水戸市の耕地面積の変化 (ha)

年	田	水田	樹園
1960	1849	4245	68
1965	1831	3574	150
1970	2349	2526	143
1975	2260	2320	176
1980	2300	1903	169
1985	2125	1683	180
1990	1982	1564	172
1995	3185	1541	153
2000	2856	1177	106
2005	3355	1126	184
2010	3243	1134	152
2015	2913	740	119

資料：『茨城県統計年鑑』、水戸市『統計年報』